

第24回 【特別対談企画】

技術と人間力の掛け算から
トップアスリートは生まれる

スポーツ教育研究者・指導者 杉山 芙沙子 氏

ビジネスの世界で信頼関係の構築は大変重要です。お客様とWin-Winの関係をどう築き、守っていくか。多くの経営者が日々、このことに腐心しているはず。しかし、足元もよく見てくれない。社員が結果を残せる適切なコーチングができていますか？
今回は、女子プロテニス界の世界的なプレーヤーだった杉山愛さんの母親で、スポーツ教育の研究者として知られる杉山芙沙子さんに対談をお願いしました。杉山さんはプレーヤー出身ではないながらも、プロ転向後の愛さんのコーチングに関わり、世界ランキング自己最高シングルス8位、ダブルス1位を達成する選手に押し上げました。過去には今をときめく錦織圭選手のコーチングにも携わり、そうした経験の中で培ってきた知見や考えをスポーツの現場や家庭教育に還元する活動に取り組んでいます。
技術だけでなく人間力の涵養も優れたプレーヤーの育成には重要と説く杉山さんの数々のエピソードは、経営者の皆さんにとっても役立つはず。ぜひ参考してください。

子どもを社会で活躍できる人間に

欠で、一方、子育てにも哲学が必要だと思えます。杉山さんご自身が子育てで哲学にされていたことはありますか。

〔杉山〕 うちの子育てというところで言いますと、まず基本的には、「子どもたちは社会からの預かりもの」という考えがベースにあり、人間力の育成を強く訴えた教育論が「経営者にも当てはまるのではないかと感じるところが多々ある」と感じるところから、社会の一員であると考え育ててきたと思います。子どもを

〔杉山〕 私の場合、育てているのはスポーツ選手ですが、お役に立てれば幸いです。よろしくお願ひします。
〔杉山〕 経営の改善というのは、つき詰めれば人の改善です。そして、人の改善というのは、心と行動の改善です。この点はスポーツ選手、とりわけトップアスリートにも共通すると思えます。企業経営者には、経営哲学や企業理念が不可



Onoda Group 会長 畠 善昭

スポーツ教育研究者・指導者 杉山 芙沙子 氏



【Profile】 杉山 芙沙子 氏 スポーツ教育研究者・指導者

すぎやま・ふさこ。聖心女子大学文学部心理学科卒。現在、一般社団法人次世代SMILE協会代表理事、パーム・インターナショナル・テニス・アカデミー校長。2011年～2014年JOCベアレンツサミットプロデューサー(文部科学省支援事業)を務め、現在は一般社団法人日本健康予防医学会理事を務める。長女のプロテニスプレーヤー・杉山愛の世界的な活躍を母親として、またコーチとして支えた経験から、スポーツ教育の研究や啓蒙活動に従事。2010年に早稲田大学大学院スポーツ科学研究科に入学し、在学中に日本のトップアスリートの両親の子育てに着目した論文を執筆、優秀論文賞を受賞。ほか、著書に『一流選手の親はどこが違うのか』(新潮新書)、『杉山式スポーツ子育て』(WAVE出版)などがある。



〔杉山〕 子が置かれている状況がマイナスの場合でも、プラスの状況を確認するということが大切です。例えば、試合で負けてしまっているときに、私に「なんで負けたか」と聞いて、「負けちゃったね、残念だったね」とその状況を「なぜ負けたか」とか「練習時間が足りなかったのかな」とか「あの作戦はどうだったの？」というような話をすることで、子どもは自信を持って、親のミッシェンだと思ってくれます。
〔杉山〕 何かを成し遂げて、それで自信が持てる。自己肯定感を持たせてあげるのも親の役目ではないかと思っています。具体的には？

押しつけず、引き出す対話

〔杉山〕 私が杉山さんの本で注目したのは、愛選手がテニスを始めたといふときに、

〔杉山〕 私は、親と子どもとの対話を重視しています。子どもは、親の押しつけではなく、引き出す対話を通じて、自己肯定感をもち、自信を持って活躍できる人間に育つことを目指しています。
〔杉山〕 私は、親と子どもとの対話を重視しています。子どもは、親の押しつけではなく、引き出す対話を通じて、自己肯定感をもち、自信を持って活躍できる人間に育つことを目指しています。

子どもたちにミッシェンを課す

〔杉山〕 大リーガーのイチロー選手には、ベテランとなった今でも個人コーチがついているそうです。杉山さんのアカデ

プレッシャーを感じさせない

〔杉山〕 なるほど。そういうことでは、脳を鍛えているわけですね。ところで杉山さんは、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科在学中に、トップアスリートにおける両親の教育方針に関する一考察という論文を発表され、注目を集めました。女子プロゴルフの宮里藍さんのお母さん、石川遼さんのお母さん、そして男子プロテニス選手の錦織圭さんのお母さんとお話をされています。この三名の皆さんにはお話を伺っていますが、その共通している点があると思えますが、そこを少し紹介ください。

自分自身を客観視する目を

〔杉山〕 信頼を得るといふ点では、公私混同も経営者は絶対にダメです。なぜか、うちの社長は今公私混同していないけれども、公私混同しようと思つたらいつまでもできる。社員はそう疑っています。だから、社員からの信頼を損なわないよう常に襟を正して、自分自身への見返りを求めない。おそろく、こういう名刺をお母さん方には持っていると思うので、教育方針として、

高い人間性を世界を制する鍵

〔杉山〕 技術だけでなく人間性、人間力が磨かれていると、スキルと人間力の掛け算がトップアスリートをつくるかと考えています。そして、世界には、圭君よりも技術的に進んでいる選手はいくらもいるので、彼が、彼が居続けられるのは、すぐれた人間力があるからだと思います。

〔杉山〕 一流のスポーツ選手は、なぜ、そのように人を惹きつけたり、会話がうまいのですか？
〔杉山〕 技術だけでなく人間性、人間力が磨かれていると、スキルと人間力の掛け算がトップアスリートをつくるかと考えています。そして、世界には、圭君よりも技術的に進んでいる選手はいくらもいるので、彼が、彼が居続けられるのは、すぐれた人間力があるからだと思います。
〔杉山〕 自分を認め、相対する相手も認めていくことだと思いたくはないところも認める。スポーツを通した「人づくり」は私のミッションであり、またライフワークでもあるので、この点を常に忘れず、長く取り組んでいきたいと思つています。
〔杉山〕 日本のスポーツ界のために杉山さんが今後も活躍されることを期待しています。本日はありがとうございました。こちらこそ、ありがとうございました。